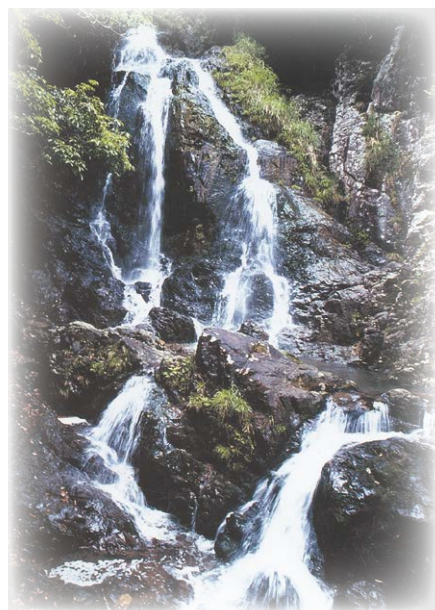




萩市水道事業ビジョン

「安心・安全な萩の水をいつまでも」



中間評価

令和 7 年度

CONTENTS

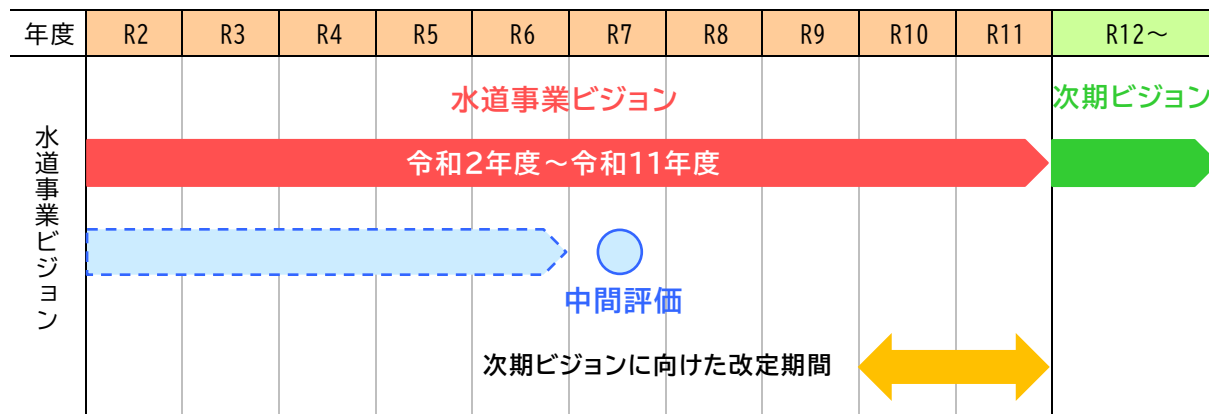
— 目次 —

中間評価の概要	1
基本理念と重要施策	1
萩市水道事業の現状	2
数値目標の達成状況	3
取り組みの実施状況	6
事業計画の見直し	8
財政計画	8
フォローアップ	1 1
おわりに	1 2

中間評価の概要

萩市水道事業では、平成 22 年 3 月に「萩市水道ビジョン」を策定しました。また、令和 2 年 8 月には「萩市水道事業ビジョン」として見直しを行い、以降、掲げた目標に向けて事業に取り組んでいます。目標年度の令和 11 年度を控え、中間年度を迎えています。

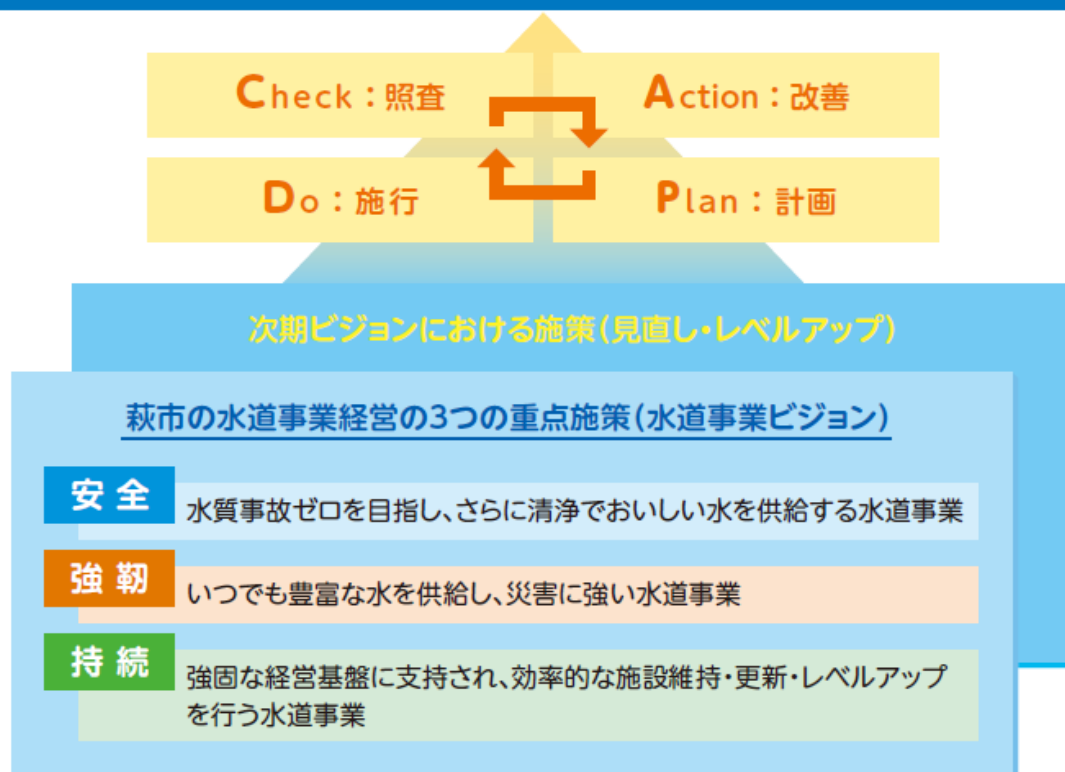
今回、「萩市水道事業ビジョン」の策定から 5 年を経て、ビジョンにおける施策の実施状況や目標の達成度を整理し、中間評価を行うとともに、必要に応じて計画の見直しを行いました。



基本理念と重要施策

萩市水道事業ビジョンの基本理念と重要施策は、策定時から変更しないものとします。

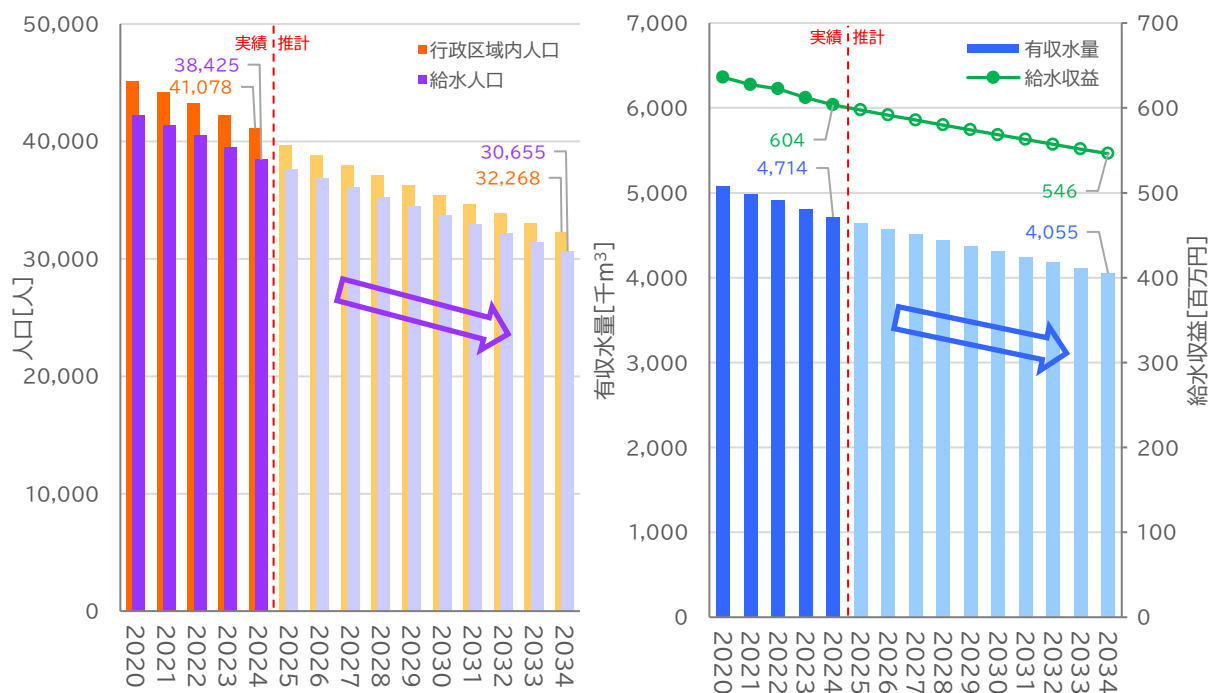
～安心・安全な萩の水をいつまでも～



萩市水道事業の現状

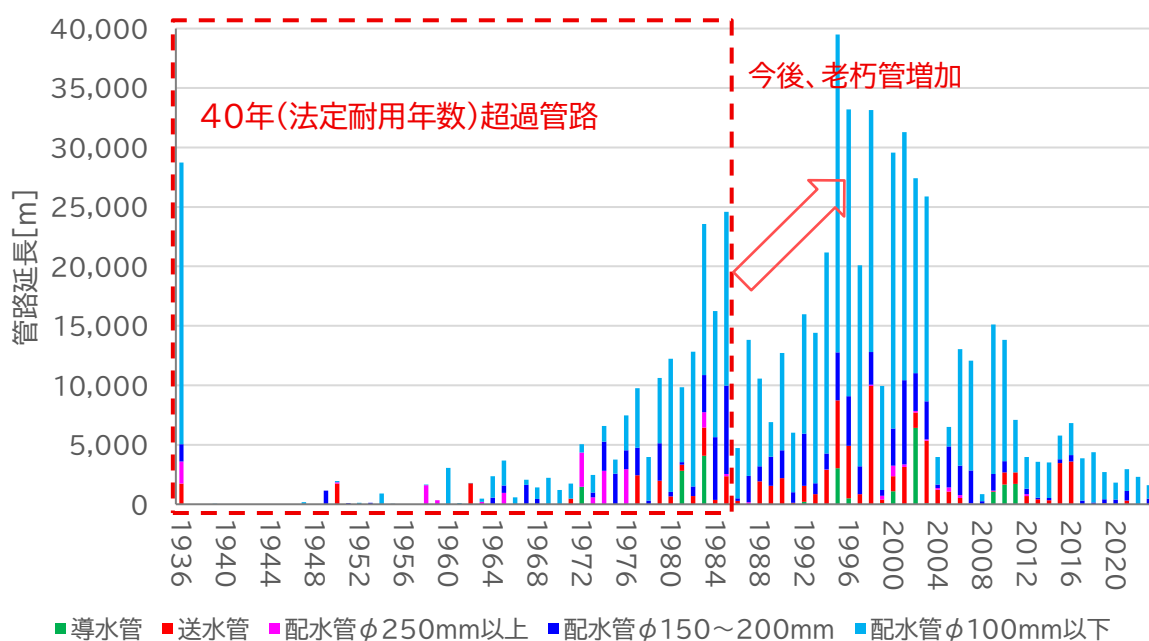
人口減少と水需要の動向

萩市の人口は、2024(令和6)年度時点で41,078人、給水人口は、38,425人です。今後も人口減少が見込まれ、人口減少に伴い、水道事業の料金収入も減少し、厳しい経営状況が続いていきます。



更新需要の増加

水道施設の耐震化や統廃合、管路更新を計画的に進めてきましたが、資産の大半を占める管路については、法定耐用年数の40年を更新基準とした場合、更新需要は年々増加する見込みです。今後は、老朽化に伴う更新需要が増加することから、効率的な事業経営を行い、将来の給水人口や給水収益を見据え、財源の確保に努める必要があります。



数値目標の達成状況

水道事業ビジョンで掲げた数値目標に対する達成状況とその評価を示します。

安全 水質事故ゼロを目指し、さらに清浄でおいしい水を供給する水道事業

目標 1-①：クリプトスポリジウム対策

クリプトスポリジウム等による断水措置（PI なし 単位 [-]）

項目名称	当初 平成 29 年度	中間目標 令和 6 年度	現状 令和 6 年度	目標 令和 11 年度	目標の内容
クリプト等による断水措置	0	0	0 継続達成	0 変更なし	現状維持

今後も水質管理を徹底し、継続する必要があります。

目標 1-②：鉛製給水管の解消

鉛製給水管率（PI：A401 単位 [%]）

PI 項目名称	当初 平成 29 年度	中間目標 令和 6 年度	現状 令和 6 年度	目標 令和 11 年度	目標の内容
鉛製給水管率	26.0	21.0	21.7 概ね達成	16.0 変更なし	≒10 ポイント低下

鉛製給水管は、配水管更新や漏水修繕に合わせて更新しており、今後も継続することで目標達成できる見込みです。

目標 1-③：水源の保全

水源の水質事故数（PI：A301 単位 [件]）

PI 項目名称	当初 平成 29 年度	中間目標 令和 6 年度	現状 令和 6 年度	目標 令和 11 年度	目標の内容
水源の水質事故数	0	0	0 継続達成	0 変更なし	現状維持

今後も水質管理を徹底し、継続する必要があります。

強靱 いつでも豊富な水を供給し、災害に強い水道事業

目標 2-①：安定した水の供給

幹線管路の事故割合、管路の事故割合（PI：B205、B204 単位 ともに [件/100km]）

PI 項目名称	当初 平成 29 年度	中間目標 令和 6 年度	現状 令和 6 年度	目標 令和 11 年度	目標の内容
基幹管路の 事故割合	0	0	0 継続達成	0 変更なし	現状維持
管路の 事故割合	0	0	5.8 未達成	0 変更なし	現状維持

今後も計画的な更新により漏水などの事故件数を減らす必要があります。

目標 2-②：震災対策の状況

配水池耐震施設率、管路・基幹管路の耐震化率（PI：B604、B605、B606 単位 ともに [%]）

PI 項目名称	当初 平成 29 年度	中間目標 令和 6 年度	現状 令和 6 年度	目標 令和 11 年度	目標の内容
配水池 耐震施設率	4.7	37.4	4.7 未達成	37.4 見直し	耐震化 (更新)
管路の 耐震化率	11.6	14.3	14.0 概ね達成	17.6 変更なし	耐震化 (更新)
基幹管路の 耐震化率	21.4	25.5	21.8 未達成	25.1 見直し	耐震化 (更新)

配水池の耐震施設率は、中津江配水池の供用開始により、中間目標を達成します。但し、事業の遅れが発生していることから最終目標を見直します。（45.1%→37.4%）

今後も管路の更新を継続する必要があります。基幹管路の耐震化率は、更新事業の実績および国や県など他事業の状況を踏まえて、最終目標を見直します。（基幹管路 32.4%→25.1%）

目標 2-③：災害訓練実施状況

災害対策訓練実施回数（PI：B210 単位 [回/年]）

PI 項目名称	当初 平成 29 年度	中間目標 令和 6 年度	現状 令和 6 年度	目標 令和 11 年度	目標の内容
災害対策訓練 実施回数	2	2	2 継続達成	2 変更なし	現状維持

災害対策訓練は、今後も継続する必要があります。

持続 強固な経営基盤に支持され、効率的な施設維持・更新・レベルアップを行う水道事業

目標 3-①：施設維持及び更新の状況

法定耐用年数超過設備率・管路率、漏水率（PI：B502、B503、B110 単位ともに [%]）

PI 項目名称	当初 平成 29 年度	中間目標 令和 6 年度	現状 令和 6 年度	目標 令和 11 年度	目標の内容
法定耐用年数 超過設備率	45.6	50.0	45.1 達成	50.0 変更なし	現状維持
法定耐用年数 超過管路率	14.6	25.4	30.1 未達成	30.5 変更なし	更新による 超過率の抑制
漏水率	18.3	13.3	20.2 未達成	8.3 変更なし	≒10 ポイン ト低下

今後も設備更新および管路更新を計画的に進めるとともに管路の漏水調査を継続する必要があります。

目標 3-②：経営基盤の安定状況

経常収支比率（PI：C102 単位 [%]）

PI 項目名称	当初 平成 29 年度	中間目標 令和 6 年度	現状 令和 6 年度	目標 令和 11 年度	目標の内容
経常収支比率	111.9	100%以上	106.5 達成	100%以上 変更なし	現状維持

今後も維持する必要があります。

目標 3-③：建設副産物の有効利用状況

建設副産物のリサイクル率（PI：B306 単位 [%]）

PI 項目名称	当初 平成 29 年度	中間目標 令和 6 年度	現状 令和 6 年度	目標 令和 11 年度	目標の内容
建設副産物の リサイクル率	99.6	99.6	100.0 達成	100.0 見直し	全量有効利 用化

※本指標は、コンクリート及びアスファルトのリサイクル率を指します。

建設副産物全量有効利用化の施策を継続します。令和 6 年度で 100%に達しているため、目標値を見直します。（99.6%→100.0%）

取り組みの実施状況

水道事業ビジョンで掲げた重点施策に対する実現方策の取り組みについて、実施状況とその評価を示します。

安全 水質事故ゼロを目指し、さらに清浄でおいしい水を供給する水道事業

施策と実現方策		取り組みの評価	
		評価	進捗状況
水質管理の強化			
	クリプトスポリジウム等 対策の実施	A	今後も水質監視を継続します。
	鉛製給水管の解消	A	配水管更新や漏水修理に合わせて、鉛製給水管の更新を実施しており、鉛製給水管率も減少しています。今後も継続します。
	水安全計画の策定	完了	3水源の水安全計画を策定済みです。

※評価は、完了、A：計画通り、B：工程見直し、C：内容見直し としました。

強靱 いつでも豊富な水を供給し、災害に強い水道事業

施策と実現方策		取り組みの評価	
		評価	進捗状況
施設・管路の耐震化と更新			
	施設の統廃合を踏まえた 耐震化と更新	B	中津江配水池(耐震)整備中です。 →供用開始が遅れています。 新大井配水池及び新須佐配水池は、次期ビジョンで計画を進めます。
	管路の耐震化と更新	B	基幹管路の事故割合はゼロですが、管路事故割合が増加しています。今後も管路の耐震化や更新を進めていく必要があります。
危機管理体制の強化			
	危機管理マニュアルの見直し や危機事象の拡大	完了	萩市業務継続計画で策定済みです。
	相互応援体制の強化	A	日水協山口県支部で定期的に訓練を実施し、災害対応能力の向上及び連携強化を図っています。また、県や周辺市町との相互応援体制を構築しています。

※評価は、完了、A：計画通り、B：工程見直し、C：内容見直し としました。

持続 強固な経営基盤に支持され、効率的な施設維持・更新・レベルアップを行う水道事業

施策と実現方策		取り組みの評価	
		評価	進捗状況
老朽化施設の更新			
	機械・電気設備の保全	A	計画的に更新を進めていますが、法定耐用年数超過率が増加しています。今後も計画的に更新を継続します。
	管路漏水の抑制	A	管路更新により老朽管路率の増加を抑制していますが、漏水率が減少しません。今後も計画的な管路更新や漏水調査を継続します。
持続可能な事業経営			
	広域監視体制の拡充	A	監視システムの導入を進めており、令和 8 年度に萩地域を除く全地域に WEB 監視を導入予定です。萩地域への導入は、今後検討します。
	健全な事業経営	A	財政計画の検証や進捗管理を行いながら、適正な時期に料金改定の検討、効果的な建設改良事業の投入による有収率の向上を図る必要があります。現在、料金改定期間および改定率の検討を進めています。
	官民連携及び 広域化推進検討	A	R6 年度に国土交通省の支援事業「水道事業官民連携等基盤強化支援業務」において、官民連携を進める上で参考となるモデルケースの検討を行いました。また、上下水道事業一体での官民連携の検討を進めています。広域連携は、山口県の推進方針が決定され協議が進められている状況です。
給水サービスの向上			
	適正な水道料金水準の検討	A	配水池整備事業や老朽施設の更新等を踏まえ、物価高騰などの社会情勢も考慮しながら適正な時期を見定め、料金統一及び料金改定を検討する必要があります。現在、改定期間および改定率の検討を進めています。
	情報提供の拡充	A	市報やHPにおいて、運営状況の見える化を図っています。
リサイクルの推進			
	建設副産物の有効利用	A	現状の建設副産物の有効利用を継続します。島嶼部への適応は、今後検討します。

※評価は、完了、A：計画通り、B：工程見直し、C：内容見直し としました。

事業計画の見直し

中間評価結果より、事業の進捗管理を実施しました。

施設の統廃合・耐震化計画や管路の更新・耐震化計画について、事業実施の遅れが発生していることから計画の見直しを行いました。今後は、見直した計画に基づき計画的に事業を進めていきます。

また、人口減少に伴う給水収益の減少や物価上昇、老朽施設の増加による更新需要の増加に伴い、今後の財源の確保が必要となります。業務の効率化や維持管理・建設コストの削減に引き続き取り組むとともに料金改定の時期と改定率について検討を進めていきます。

表 事業のスケジュール

施策	事業概要	R7	R8	R9	R10	R11	R12以降
安全	クリプト等対策						
	鉛製給水管の解消						
	水安全計画の策定	完了					
強靱	施設の統廃合・耐震化						
	基幹管路の更新・耐震化						
	危機管理マニュアルの見直し	完了					
	相互応援体制の強化						
持続	機械設備の保全						
	管路漏水の抑制						
	広域監視体制の拡充						
	健全な事業経営						
	官民連携及び広域化検討						
	適正な水道料金水準の検討						
	情報提供の拡充						
	建設副産物の有効利用						

財政計画

今回、中間評価の実施にあたり、財政計画に実績値と物価上昇や計画見直しを反映した財政収支シミュレーションを行いました。

現在、収支ギャップの解消に向けて、ビジョンの中間評価の後に料金改定について詳細な検討を進めていきます。

財政計画(～令和11年度)

[illegible]

収益の収支（消費税抜き）

資本的収支（消費税込み）

経営比較分析表(令和6年度決算)

業 務 名……法適用
業 種 名……水道事業
事 業 名……末端給水事業

山口県
萩市

資金不足比率(%)……………
自己資本構成比率(%)……………54.55
普 及 率(%)……………93.54

類似団地区分……………A5
管理者の情報……………非設置
1か月20m³当たり家庭料金(円)……2,233

現在給水人口(人)……………41,637
給水区域面積(km²)……………698.31
給水人口密度(人/km²)……………59.63

分 析

1. 経営の健全性・効率性について

萩市の上水道事業は、昭和11年に創設、昭和36年に地方公営企業法の適用を受け、平成29年4月1日に簡易水道事業等を全て経営統合し、全市域の水道事業を一つの上水道事業として経営している。

経営収支比率は100%を上回っており、経営状況は健全な水準を保っている。

流動比率は、理想比率200%以上とされており、短期債務に対する支払能力は安定している。企業債務高対給水収益比率は、経営統合及び大規模整備事業の実施に伴い企業債務高が増したため、平均値を上回っている。比率の増加を抑えるため、適正な料金水準や企業債借入額の圧縮等を検討する必要がある。

料金回収率は、総務省通知に基づき繰出基準及び市財政課との協議による補助金等の収入があるため、平均値より低い数値となっている。給水原価は、建設改良事業費の増加に伴う企業債利息の増加及び委託料等の経常費用の増加の影響により、前年度を上回った。

有収率は、管路の経年化に伴い減少傾向と

なっている。

引き続き、経年管路の更新や漏水調査による早期漏水箇所特定を行い、有収率の向上を図るとともに経営の健全化に努める。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率が平均値より高く、増加傾向にあることから、更新時期を迎えている施設が増加していると思慮される。

管路経年化率は、平均値とほぼ同様の推移をしているが、管路更新率が平均値を下回っている。

老朽施設の解消を図るため、施設整備計画である「水道事業ビジョン」に基づき、耐用年数を経過した水道管路及び施設を計画的に更新し、水道水の安定供給と有収率の向上を図る。

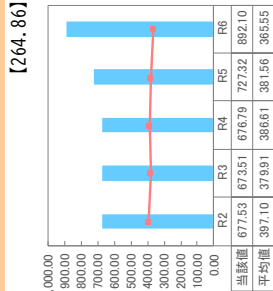
全体総括

萩市の上水道事業は、適正な料金収入の確保や経費の抑制に努めているが、離島や中山間地域等の施設を多く抱えていることから、一般会計からの繰入を必要とする状況にある。

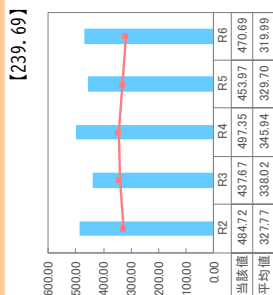
また、経営状況は健全な水準を保っているものの、近年の物価高騰の影響や老朽施設の更新等の実施に伴う大規模な支出が見込まれる。

このようなか、水道水の安定供給と経営の健全化を図るため、これまでの事業効果を検証しながら、中長期的な施設整備計画である「水道事業ビジョン」の見直しを行っていく。

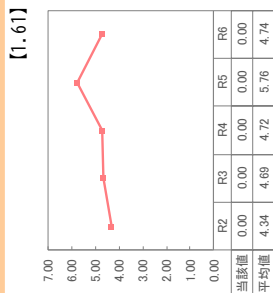
④企業債務高対給水収益比率(%)



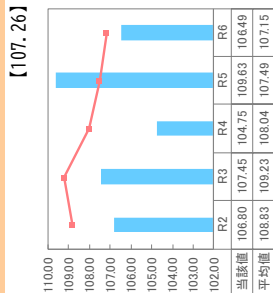
③流動比率(%)



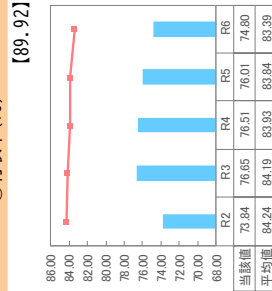
②累積欠損金比率(%)



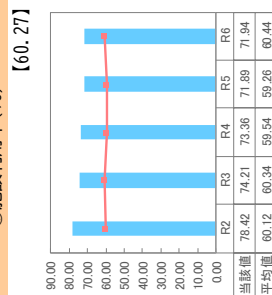
①経常収支比率(%)



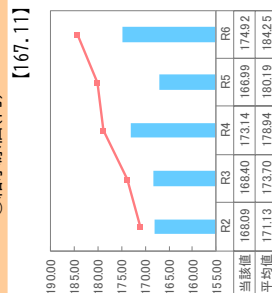
⑧有収率(%)



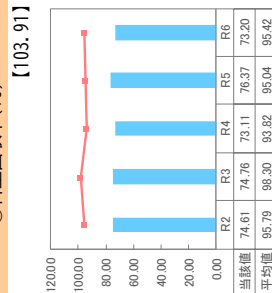
⑦施設利用率(%)



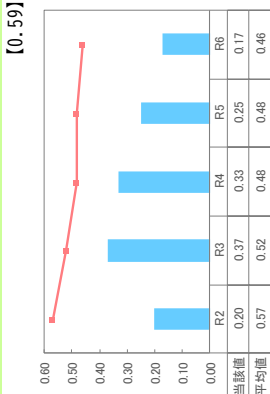
⑥給水原価(円)



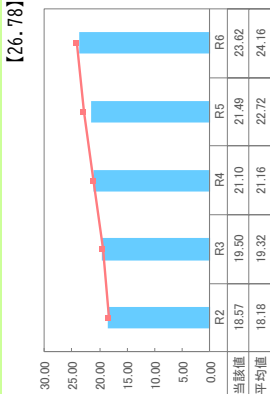
⑤料金回収率(%)



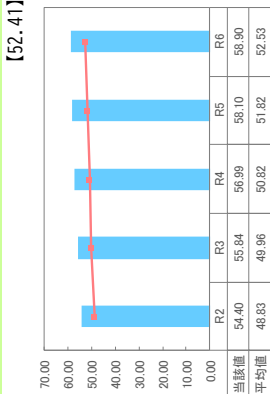
③管路更新率(%)



②管路経年化率(%)



①有形固定資産減価償却率(%)



2. 老朽化の状況

フォローアップ

「萩市水道事業ビジョン」は、令和2年度から令和11年度までの10年間の計画です。今回、ビジョン策定から5年が経過し、目標や実施方策の達成状況の進捗管理を行いました。今後も次期ビジョンの改定に向けて、計画（PLAN）、実行（DO）、評価（CHECK）、改善（ACTION）といったPDCAサイクルを用いて目標達成できるよう、必要に応じた計画の見直しを行いながら、事業を推進していきます。



P LAN	（計画）：あるべき将来像を定めた水道事業ビジョンの策定
D O	（実行）：計画に沿った事業の実施
C HECK	（評価）：事業が計画に沿ったものとなっているかの確認
A CTION	（改善）：事業の実施が計画に沿っていない部分の改善

おわりに

今回の「萩市水道事業ビジョン」の中間評価にあたり、現行の水道事業ビジョンのフォローアップを行い、進捗管理と評価、計画の見直しを行いました。

萩市水道事業の現状は、今後加速していく人口減少に伴い、給水収益の減少が見込まれています。また、老朽化した管路や施設の更新等を控えており、経営は現在より厳しいものになることが予測されています。

経営においては、効率化やコスト縮減に引き続き取り組み、健全な経営を行うために、適正な時期に水道料金の水準について検討を行っていく予定です。

最後に、各施策目標を達成するよう努力し、

～安心・安全な萩の水をいつまでも～

という基本理念のもとに長期将来を見据えて、よりよい水道を目指していきます。



